

医療人材育成連携で講演会

古河中等教育学校

城西病院の白石裕比湖理事長は11月17日、古河市の茨城県立古河中等教育学校で「医学科志望の皆さんへ」と題して講演。医学部志望の医学部試験の状況や医師国家試験の状況、医師となってからの活動などを自らのエピソードを含め、時にユーモアを交えて講演しました。

古河中等学校は、茨城県の県西地域で初めての中高一貫校として2013年4月に開校。3月10日、医療の道を志す生徒たちに本物に触れる機会を多く与えたいと、医療人材育成連携を狙いに城西病院と「地域連携協定」を結びました。協定では、茨城県の地域医療を担う人材育成を目指して、医療従事者による講演会や医療現場となる病院の訪問などを通じて連携するという内容です。同校では2018年度から卒業生を送り出し、これまでに6人が医学部に進学しています。

講演会は、「ここにいる生徒さんは、皆さんが同じ目標を持つ仲間。一緒に手をつないで医学部の門をく



ぐってほしい」と語り、医学部の受験状況などを紹介するとともに、学費事情も実体験に基づいて披露。医学部に入学してからの勉強や研修医の体験についても触れました。

医師となり、サンフランシスコに留学した時



に、ノーベル生理学・医学賞を受賞したジェームズ・ワトソン氏との出会い、自治医大で一緒に仕事をしてきた尾身茂・新型インフルエンザ対策本部専門家諮問委員会委員長をはじめとした数多くの人との出会いを紹介、また自身が週刊誌で小児科医として「本当の日本の名医」に選ばれたことなど、医師となって出会った人や出来事なども紹介しました。

講演の中では「医学部に入学しても学力不足のために親が呼ばれて、『ほかの道を探したほうがいい』と大学から言われる生徒もいた。医学部に合格しても卒業できなければ医師国家試験は受けることができない。医師になるという強い意志が必要」と心構えを説き、「医師は体力を求められている。そしてへこたれない神経も必要。勉強の合間に心身を鍛えてください」と語りました。最後に、「受験のために勉強するのは当たり前。そのうえで、学費を考慮し、受験情報を収集してください。そして何より、医師となろうとする志をしっかりと確認して挑んでください」と結びました。

2021年11月18日

